

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502769		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花 清田館 2階		
所在地	札幌市清田区清田6条1丁目11番15号		
自己評価作成日	令和元年10月10日	評価結果市町村受理日	令和2年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502769-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170502769-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和1年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の実績を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に理念唱和している。今年度後期は各職員に理念実現について考えてもらい、事業所として計画を立案、実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	今年度も町内会と近隣施設合同で夏祭りを開催した。あいにくの天候だったが、当館にも地域の住民が多数訪れ楽しまれていた。敬老の日には記念品をいただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	清田区SOSネットワーク検索訓練に参加したり、「きよたみまも〜」の協力機関への登録を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議ではスライドショーやパワーポイントを使用し、運営・活動報告をわかりやすい内容にしている。毎回議題を決めているが、家族からの意見を参考にしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者には、機会あるごとに連絡し、いろいろと相談している。特に、認定調査時には利用者様に対するサービス内容や、生活状況を詳細に伝えるよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人のマニュアルを遵守し、法人内で年4回、事業所内では年2回以上の研修を行っている。センサー・鈴の使用についてもケアプラン更新時に見直しを随時行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	前年度制定された当法人のマニュアルに従い、法律を学ぶ研修機会を設けている。また、外部研修を受講したり、内部研修でグレーゾーン・不適切なケアについて学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年1回は社内研修で権利擁護について学ぶ機会を設け、問い合わせ先の確認や事例など学んでいる。当ユニットでは成年後見制度を申請することがあり、書類作成に携わる経験があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本社営業部長と管理者が同席し時間をとって丁寧に説明を行っている。重度化や看取りについての対応や、退去を含めた事業所の対応可能範囲、料金等書類にて同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望が話しやすいよう面会の際に自室で聞き取りをしたり、玄関にアンケートボックスを設置したり、遠方や面会が少ないご家族様には、電話や手紙で近況報告等を行っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理者会議やユニット会議、職員の意見・提案は聞く機会を設けている。また、必要に応じて、管理者が職員との個人面談を行い、就業体制やストレスなど細かく把握するため前年度より回数を増やすようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各研修受講費の負担や、初任者研修、実務者研修受講の支援を会社で行うこととなり、職員が向上心を持って働ける環境整備に努めている。介護職員特定加算では全介護職員に行き渡るよう設定された。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を開催したり、外部研修参加の推進など研修を受ける機会を確保している。また、研修参加者が事業所内にて伝達講習を行うことで、共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市や同区内の管理者連絡会へ出席し、勉強会・交流会に参加している。清田区SOS訓練や他事業所の夏祭りの手伝いなどで参加し、同業者との情報交換を図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に可能な時は見学に来て頂き、他介護サービス利用時の見学や、その事業所職員からの聞き取りなどを行い、ニーズの把握や信頼関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・職員は、家庭への事前面談やこれまでのご家族の経緯や要望をカンファレンス等で共有できるようにしている。ご家族からも入居後の観察や報告してしてもらいたいこと等細かく伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の実情や要望等を確認・相談しつつ、関係職員と必要な支援を提案・検討するように努めており、看護師や指導者等色々な職種からの入居検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の身体状況に合わせて、掃除や調理、食事の片付けをさせていただいている。又、職員や入居者同士が気にかけていただくように働きかけ、一緒に生活をしている意識の働きかけを心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から在宅での介護の様子を聞き取ったり、入居後に都度要望やご本人の変化など確認するなど信頼関係構築づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人ひとりの今までのつながりを大切にし、友人の訪問や電話や手紙のやり取りができるよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂席、テーブル・ソファー位置を変更するなど工夫している。家事やレク作業にも職員の見守りや関わりによって、複数名が円滑に和やかに参加できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や医療機関に移った場合でも、馴染みの職員が面会に行くなどして、サービス利用中に培われた関係性が継続するよう努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時に、ご本人やご家族から聞き取りをするようにしている。ご本人からの意向把握が困難な場合は、日々の言動から心情をくみ取る努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族に基本情報シートを記入していただき情報を得ている。また、入居後や信頼関係構築後など、ご本人自身からの会話やご家族訪問時に聞き取り、情報追加を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の他介護サービス事業所やご家族から具体的に聞き取るようにしている。入居直後には、毎日の申し送り時や毎月のカンファレンスで、ホーム生活と照らし合わせて調整し、個別にあった暮らしを検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング・アセスメントは各担当職員が行い、プラン作成担当者がベースを作成、カンファレンスで必要関係者と協議をしている。通常は3か月毎に見直し、事故、入退院等あれば、都度介護計画を見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケアプラン記録には番号をつけ把握しやすくしたり、ご本人の具体的な会話内容をありのままに記入するなど、心情や要望の共有に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態やご家族の状況によって、個別外出を催したり、代行購入したり、緊急時の対応や柔軟に通院支援などの対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設の行事に積極的に参加したり、毎年恒例の町内会行事にも参加している。普段は町内や公園などへの散歩を楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時や入居後もご本人やご家族と話し合い、かかりつけ医を選択できるよう希望を大切にしている。必ずご家族へ事前に訪問診療日予定を知らせており、同席出来るよう配慮している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、本社から訪問看護があり、健康チェックや相談・報告を行っている。介護職員に、生活上での観察ポイントの助言を頂いたり、入居相談時にも医療部分でのアドバイスを受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、事業所内でのご本人の状況を、書面提出したり、ご家族と回復状況等の情報を交換を行っている。退院後の生活にはなるべく変化がないよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した際の指針・看取り介護指針の説明をし、同意書を頂いている。また、病状に応じて、ご本人、ご家族、主治医、管理者等で都度インフォームドコンセントを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時の対応方法は常時掲示を行ったり、内部研修で振り返りを行っている。当法人では職員全員対象に、普通応急手当講習が実施され受講している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会にて年2回以上の火災避難訓練を行っている。地震対策は停電時、水害対策では地域や他館との連携などマニュアルを策定している。		
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修にて「プライバシー保護」の研修を実施した。その際には具体的なケアの場面や各入居様を想定した声かけなど学び、すぐに実践に結びつくように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側の思い込みや決定ではなく、選択できるような提案をし、一人ひとりが自分で決める場面をつくるよう支援している。嫌な時は無理強いないようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人の体調やペース、外出や面会、またその日の心理状態を尊重して、日課や業務を変更するなど、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選べる声掛けや、一緒に選んだりしている。1日に何度も着替える入居者様には職員も都度褒めたりしてその人が心地良くなるよう心理的支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日の献立を事前に紹介したり、出来る範囲で一緒に食事を開始し共有する場面を提供している。できる方には調理や下膳、食器洗い・食器拭きなどに参加していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の疾病や嚥下状態を把握したり、摂取量には一覧表にて都度確認・調整できるようにしている。食欲低下の入居者様には嗜好の麺食の提供を多くするなど、個人に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方は見守り程度とし、困難な方にはスポンジやマウスウォッシュを利用している。口腔ケア拒否が強い方は、訪問歯科と協働して対応している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な排泄支援時間はあるが、個人の排泄パターンに応じて一律にせず柔軟に対応している。又、立位などのリハビリや疼痛緩和での医療と連携し、排泄動作が自立できるよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳や甘味物を提供したり、排泄予防運動等の運動や、外の空気を吸って場面転換するなど、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	午後にゆっくりと入浴して頂けるようにしているが、拒否や受診、外出等ある場合は、担当者や時間帯、日程を変える等柔軟に対応している。入浴剤も使用し、香りや色を楽しむことができるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に消灯時間が違うので、消灯時間を決めずに、部屋で過ごしたり、テレビを観たり、一人一人の生活習慣を大切に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握できるように、目のつく場所に「薬情報ファイル」を設置している。内容に変更がある場合は、必ず申し送りで確認したり、診療記録や業務日誌に記入、回覧を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭での園芸や、併設デイサービス・他ユニットへの散歩や好みのテレビ番組など、気分転換できるよう支援している。外出行事の際には、入居者様から要望の聞きとりをしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームには農園があり、日常的に散歩外出できるよう人工芝を弾くなど工夫している。また、ご本人の希望にそって、買い物や公園散歩の付き添いを支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買いたい物が有る際は職員が相談され、近隣のコンビニ等で使える様支援している。理解の認識不足の際には、ご家族と一緒に使用するようアドバイスしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自宅でゆっくり子機を使用していただいたり、ご本人の希望やご家族からの電話には、気軽にとりつぐようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が自身で話すこともできない方の場合には、細目に寒さ暑さや眠気など聞いたりしている。壁装飾や食事メニューにも季節感を採り入れ、一緒に作業するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂席にはネームをつけて、心地よく過ごせる場所が認識しやすいよう工夫している。また、和室も設置しており、広々整理して入居者様が活用しやすくなり、腰をかけることができるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、自宅で使用していた馴染みの家具や日用品を持ち込むことができることをご家族に説明している。事前面談などで、家具配置がなるべく同じになるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わがこと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーとなっており、全面的に手すりが設置されている。また、トイレや洗面所などに目立つ表示を設置している。コーナーや壁、手すりに移動の際に接触しそうな危険箇所にはクッションやラバーを追加した。		